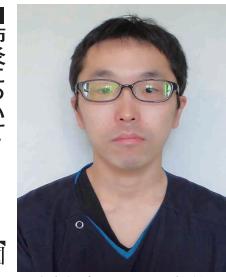
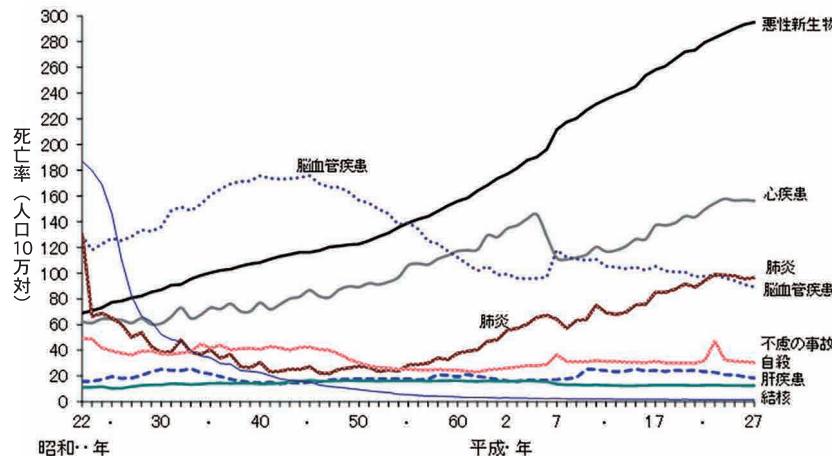


誤嚥性肺炎って何だらう？①



津村誠 言語聴覚士

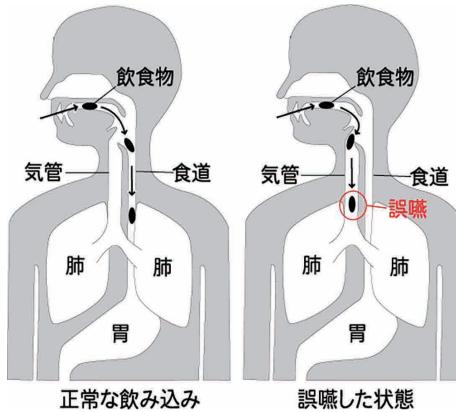
【図1】



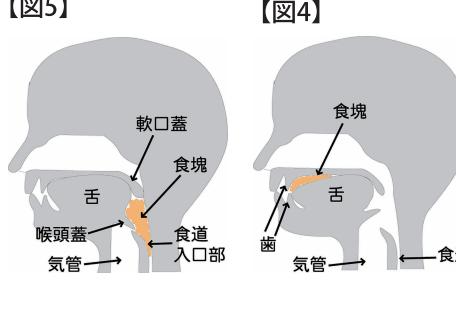
注：1) 平成6・7年の心疾患の低下は、死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月施行)において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。
2) 平成7年の脳血管疾患の上昇の主要な要因は、ICD-10(平成7年1月適用)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

厚生労働省ホームページ 平成27年人口動態統計月報年計(概数)の概況
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai15/dl/zu.xls>) 内の図6より

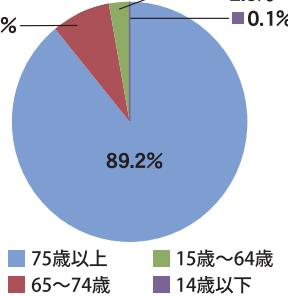
【図3】



【図5】



【図2】



厚生労働省ホームページ 平成27年人口動態統計月報年計(概数)の概況
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai15/dl/zu.xls>) 内の図7-1データより作成

■肺炎について
「肺炎」という病名に、どのような印象をお持ちでしょうか。一般に「風邪をこじらせた炎で亡くなられた方の多くが75歳以上の高齢者となつており【図2】、こうした数字から肺炎は、細菌やウイルスが強いかと思います。しかし実際のところは、特に高齢の方にとって恐ろしい病気です。

【図1】、平成27年には約12万人がこの病気を死因として亡くなっています。さらに、肺炎で亡くなられた方の多くが75歳以上の高齢者となつており【図2】、こうした数字から肺炎は、細菌やウイルスが強いかと思いま

す。しかし実際のところは、特に高齢の方にとって恐ろしい病気です。

【図3】、このと

ういう、飲食物や唾液などを

と共に細菌が肺に入り込み、その結果引き起

つてしまふことをいいます。【図3】。このとき、飲食物や唾液など

により誤嚥性肺炎を生

むことがあります。肺炎は、細菌やウイ

ルスが肺の中の肺胞に感染して炎症を起こしたものですが、その原因菌として一番多いのが肺炎球菌といわれています。こうしたこ

となどから、平成26年10月より、主に65歳以上で条件を満たす方を対象として、肺炎球菌ワクチンの接種費用の一部が公費で負担される定期接種が開始されました。

■誤嚥性肺炎について
次にタイトルにある誤嚥性肺炎(ごえんせんいえん)について

【図4】、このように、誤嚥した状態では、なぜ年を取り

る」といわれることが多いです。

説明していく。誤嚥(ごえん)とは、本人の死亡原因として、悪性新生物(がん)、心疾患(心臓病)、肺炎(肺炎球菌)などが原因として、その原因菌として一番多いのが肺炎球菌といわれています。こうしたこの位置にあります。

最初に、【図4】のように口に入れた食物は、歯によって咀嚼(そしゃく)され、後に舌によつて塊(くず)を運ばれていく飲食物や唾液(つばえき)、あるいは逆流した

胃内容物などが、誤つて呼吸(hô)のための空気の通り道である気管(きけん)に入

ります。【図3】。このとき、飲食物や唾液など

により誤嚥性肺炎を生むことがあります。肺炎は、細菌やウイ

ルスが肺の中の肺胞(はいぼう)という所に感染して炎症を起こしたものですが、その原因菌として一番多いのが肺炎球菌といわれています。こうしたこの位置にあります。

最初に、【図4】のように口に入れた食物は、歯によって咀嚼(そしゃく)され、後に舌によつて塊(くず)を運ばれていく飲食物や唾液(つばえき)、あるいは逆流した胃内容物などが、誤つて呼吸(hô)のための空気の通り道である気管(きけん)に入ります。【図3】。このとき、飲食物や唾液など

により誤嚥性肺炎を生むことがあります。肺炎は、細菌やウイ